新板
絵入

南本芳草花

文之巻

特別
へ13
4434
5

A13
4434
5

南東養日記

叢本藏書

目録

第一　赤間書紙の色小遂てふるがり
親とゝもに船を洗ひ流と血しか
流まの分ふもゝと間果乃奏
結び和し歌とかゝれの義理話

天之巻

東洋文庫

第二　観音の粉を積みて弁慶ねぶり
孔明のいめへを変小弾碁の縁
三味線の駒の脚並べ三百紙人形
数萬の欲を落し完全捕り狸ぶち
第三　人うも長柄もさね人の切米
仇を報ずる忠義乃かたき討
詠歌の間ふりのうと赤目寺
第久しく細まる大祝儀

第一　赤目寺紙ぐ色小まよかぐら
狐の謀りく限よいあらびぬ。百年歳作よ先まこと。
村の侍も感ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。百年取ふく立ま。
迎ん。一まつい見合しくる。作よ入く裏の塀
ぼくひ。ぶび来るのあり。怪しやと軍ぎまぐる
おいうう移えろろげ。遠し見まい歳作ぐくの
あうう。ぐそこ。清ろしく。財布小入まし金とぐ
まべおよいいぐれあるし。四へうもうひ入まべあう
い横ぐれしく。悪きいまぐしいぐ。食ぶくるう小ぶ
うろうんとあり。四そまとあるしくや親えへ歳作
わが逃しおくう。名昇人金れを不知まぐまと。

茂作夫婦が留守なりし日。お常は小掛硯のひきだし
へ入れおく物を差し出し。合せて拾両余りの盗みし
生しく気のつかず縁来の心得つゝ何事もいはざりし
夫婦はゆくへしれざりしかばそれをきゝさわぎし。
財布あるべくも七拾両余は性にありと懐中し。
これぞ天の照らす理なれども神仏に宿善ありてや
夫婦はおもひしは茂作めをさがし金を取出して
やりその身に身退させて立退く業。それには備く
幸ひにふびんゆゑ我が無益の事どもよくやらん
小ぶかさまていはばそちが心の御しさのない故なり。や
我は此所を立ぬくは極めてしこちやんが一文ない故。
その工面の胴ぶくらんで拾両余をいふはし。おのれ

おいしくやはりまゝていへばおかりは無事なれば。梅は
金状ありんなるよしをだまされていのひとつもせし妹
背の中いづくまでも行ねがおかねてむかしやぶりほくぞ。
つき死しくそれにもふる縁くそれはきさらふら傭ひさせ
ねつその金を出させたりがへせしと源男は小声にさゝやきのよし。
軍蔵夫是非もなく刀をぬきてねく手も見えず。ぐんぐっと
通らば。その夜今もかへさば遅れくもゆきまいらぬ小石その
かと。心ざきとゞまるが。志しもとぐるを為。沢をも知らねば
うらむも左身が軍蔵まていふは頼の名。お本名は本田の
頼三郎が悴お日出三郎秀吉といふもの。この月生橘まさ
成る恨ありくされく心を捧ぐもいそぐも。彼が智略よ
二度の孤身をきぎかしく。この度大軍を得し此度母

を宮めんとおもひぐ。軍用金かもとめられば。ぐうよ
月日紙おくる。さうふ商ばかりいふ。むすめの
書紙八帝と性人付女房い自分の夏女ゐ。家よ
ふよ紙をうしろ金をみて。身ふつるよう能くおもへば。
書紙くも生活あるものをうれを計くん金紙うだひ。
甲冑武器の用意をんと。能く懶へ引紙しよ。おひ
げ月をちぐ思性。元天のあくと心ふ深ね金ゐ
ぶうをとで。責くしけ七十ち金うもれば。天のうさき
うしど。芝地付まんとあるゆへよ害とぴへよ
ぐりあうい若き息のもと。むそれどうるの雅
名い能若くいうんざう。能初ゐとおぶき。
うぐむる新をふうよく。顔をるどの妻おもほい自ら

事。ふく紙十八ゐく産ふ。いこ海出く流浪せしよ。
ふくく縁くこ十紙。書紙化結つどの奥ぐへまこ
し。奥ぐゐ元の後いつくる。後の妻ゐ縁ゐとわく
むす。赤目の家宿絶ぶく。能若話方に雑俳ちると
ぶ。我身を放埒よね。男の云器と貝後ゐ産し能い
若をゐ出しおひちよ。ゐ
初ど枕をくこ。二世のこ世のとむつどいつのいと
の世ふくがん顔ゐる後の毒いい事。化結つ後ふも
うくにめべ。今れ義作いる紙初ど。縁をとゐんを
せしれ身ぐ我美のるふこゐ。弟のゐる果ぞ
ふしやゐ。ゐんれ我ゐとうんとれどさぐ免云枕
くをせしゐ高まゐんぐやい悔やとせぐかぐ。ふう

うろくぬ
るる手行の
えのんで
ぬろくるる
めろくるる
えいろるる

ろあと
いんぎと
ろるん
ぬん
せよ
ようだな
ろつさの

くくてふかる。赤面たて郎おくくやお母は
かいたんくくに一つ仮名みのいさぶ我身をしめ。
武蔵国の人書の界名ねる兵士のそう縄つぎ
ゆも。孤面たんくくも減くくしぐかりかとぶくくと
わ手びたんくくぶをぶくくびおといくくれくくんも
くくけ思おうとう乱とうぐくしいも枝をかりひ
けけ故るしべ。父の俺を報ぎん車。むしびくなめれ。
らくくさねくくを図くく。えよんど。和くくなかりと母の
乱髪毎犯しくる罪へ排くよもぶくくひくくるふ脇
の。兄かき墨とさいるぬ。絵まくく左右とえのくけ

第二 観公寺粉を積くくお井戸ね係

猪倉侯家九代相続入乃年号時。ふひを教こ
義満つくおくよ欲おくし。文よりを事ましせど。
成敗見後小幸くくく。第くくふひぐくくふ
おくくんもかんらうんぐおくし。小法破綻天皇と
浦よ稲くんと。軍会をくくれがくくの学へ限をなく。
後陽成四義おう。おくと思びを乱ひをかふ
にの四の際幸おくくぬ。浄夏の
くくを詔枝をくくおくくこ。ねびぬずくく多年よ
稲。義を寺護しまいぬ。会波羅の果る歩よ
くくぬ。ひとを波稲くくもしくくも。乱あもくく歩
まけしうべ。家くくあ大年くくぬ。稲倉の御後くくく
みくく。二階業出稲入乃瀛を。大ねみく。百騎

父のかたきハ天下の仇一命にかへてもとるべきなれば
なく日夜やすまず古今無双の武威にほこり毎々討手を
亡ぼしたる首をさらし給へば二階堂も責おとされて
かへる所に武士一統の御世となり大将の陣に来りて
謀りごとをめぐらし首を取りまいらせ武士の面目
けしからぬ笠置の籠城の御家人なりし赤坂籠城
嫡男赤坂正成が一子正行ハありし楠と
まをし八郎と名乗り今は波羅のおさへと陸奥守殿を
たのみ此所に籠りて後藤の浪の末に陣をかまへ楠を
討て父のかたきを報じたく思ひ今は新田へ
申合ハ父が仇ハ御免を蒙り私をも御味方にまねかれ
まされるが一ツの謀をめぐらし一戦にほろぼし

中さんとやらんハ大将ハ父が事へをかくし若輩にて
責おとされける山城一戦に討死したるハ能く存じたる
事なるに謀かりける事を又此謀にいかなる術で
己の罪ハ赤坂の右三郎鬼をねぎ楠が母公の弁
同姉浅浅ハ兼て親父るに隠しかきより楠より人
質とし是を懐にまして軍をたのみ楠をやん
かくし隠居の右の方まで親父るかくまで
この事ハ何人もなく隠しかしりつゝいづれも是非
無理の御所直ならバ甚母や姉を人質ひとりく
来るハ所在の威状後日の証拠廣まるべし此の
何を知人の身と人数をそろへておそれ人
数をかしられと申すまで待ち一かしら続きの

武士三十。歩武士二百法師。赤目を見て
いさゝか。親しみるへそ。親しむもの長老。
師へ。梅を二の絵を人毎に
ふいさうのぞ。人く。要実こびく。
軍勢惣さと。門より。徐食度うり。
うそ。梅がゆりの。絵ゝそ。渡とはこそ。焼詩さん
と見ゝこゝ。門ゝ。仕ゝるの二階。
傷ゝ。ゝけ。絵ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
二人ゝ。勝ゝ。大勢。ゝ。ゝ。
水ゝの。ゝ。人ゝ。横。ゝ。ゝ。
行ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

いゝく。ゝ。二階の秘曲。ゝ。ゝ。
面。の。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

[illegible]ふるまとして[illegible]ふるを[illegible]よいらもてい[illegible]を[illegible]返[illegible]の
節[illegible]より門をのぞけば[illegible]より堂へ坂をのぼり[illegible]より
ふるさ[illegible]山[illegible]より[illegible]の[illegible]を[illegible]風[illegible]仕[illegible]る家
いへの絵どころ[illegible]ぐ[illegible]。中[illegible]書[illegible]る武[illegible]いく[illegible]云
かぞ[illegible]ぞ。[illegible]ぶく[illegible]静[illegible]うへ[illegible]べいづ[illegible]おの
きこれ[illegible]る[illegible]絵の[illegible]わく[illegible]多[illegible]よへ[illegible]おく[illegible]がく[illegible]。
おじさいきくうんだき[illegible]風[illegible]。[illegible]やく[illegible]おく[illegible]りが
引[illegible]ふ[illegible]。茶[illegible]平[illegible]んく[illegible]。勝[illegible]ぞう
くけ[illegible]。平の城よへ城[illegible]人[illegible]へ[illegible]く
わ[illegible]けいぐ[illegible]えく。[illegible]の障
[illegible]。茶[illegible]人形[illegible]。油[illegible]仕[illegible]の[illegible]四[illegible]へ七通
ふ[illegible]べ[illegible]きい[illegible]と[illegible]変[illegible]の

味[illegible]を定[illegible]。親[illegible]る[illegible]郎を
さ[illegible]く。百人[illegible]付[illegible]。黒[illegible]かま[illegible]る赤
間を帰。[illegible]けの[illegible]れ[illegible]ふ[illegible]通[illegible]一[illegible]度[illegible]二
度[illegible]。[illegible]度ふ[illegible]ね[illegible]今[illegible]を[illegible]ぐ[illegible]ね[illegible]笑[illegible]る

第三 今も長柄の橋人乃切

天運善[illegible]ふ[illegible]く[illegible]常ふ[illegible]ふ[illegible]
いた[illegible]ね[illegible]の温冷[illegible]ふ[illegible]人を[illegible]く[illegible]
[illegible]。[illegible]倉へ新田[illegible]負[illegible]へ[illegible]
亡し。[illegible]へ[illegible]る氏[illegible]。[illegible]を
[illegible]小[illegible]。[illegible]ふ[illegible]と[illegible]。[illegible]階[illegible]
ふげ[illegible]。[illegible]の[illegible]に。[illegible]古。

之後相はおく〳〵へらまいよりく無人骨骸小徹し。
北人と成る〻稀〻も。相はこれに立身し。ことゲ國のま
とあげ名まいび。赤月を即我室命を謂ひ名
しやかしら紙刺墨の衣よ身を器し。拾遺集歌
よ庵を結ひ只一まぐ小稀名極示人よ慢い流まいく
月見れおしむ波安の幸ぢれい安墨不退物の紙
を彩人珠数の玉袋腸ふ〻そいりんよりる〻めいのふ
ぢ〻いまが愚るたりく。我を敬と稀人北見れ
どもいくえ〻も立ちしきゆ〻ろぐし。一寺とろうて
安住させんと。我よ紙まこの。もおもね寛仁大後。
まぐ〻に一る達ぢ〻ぐ。赤月の教園とあるさあて。べ
院の修武幸稀ら。一藩〻の無紀を信じ。説法あきい。

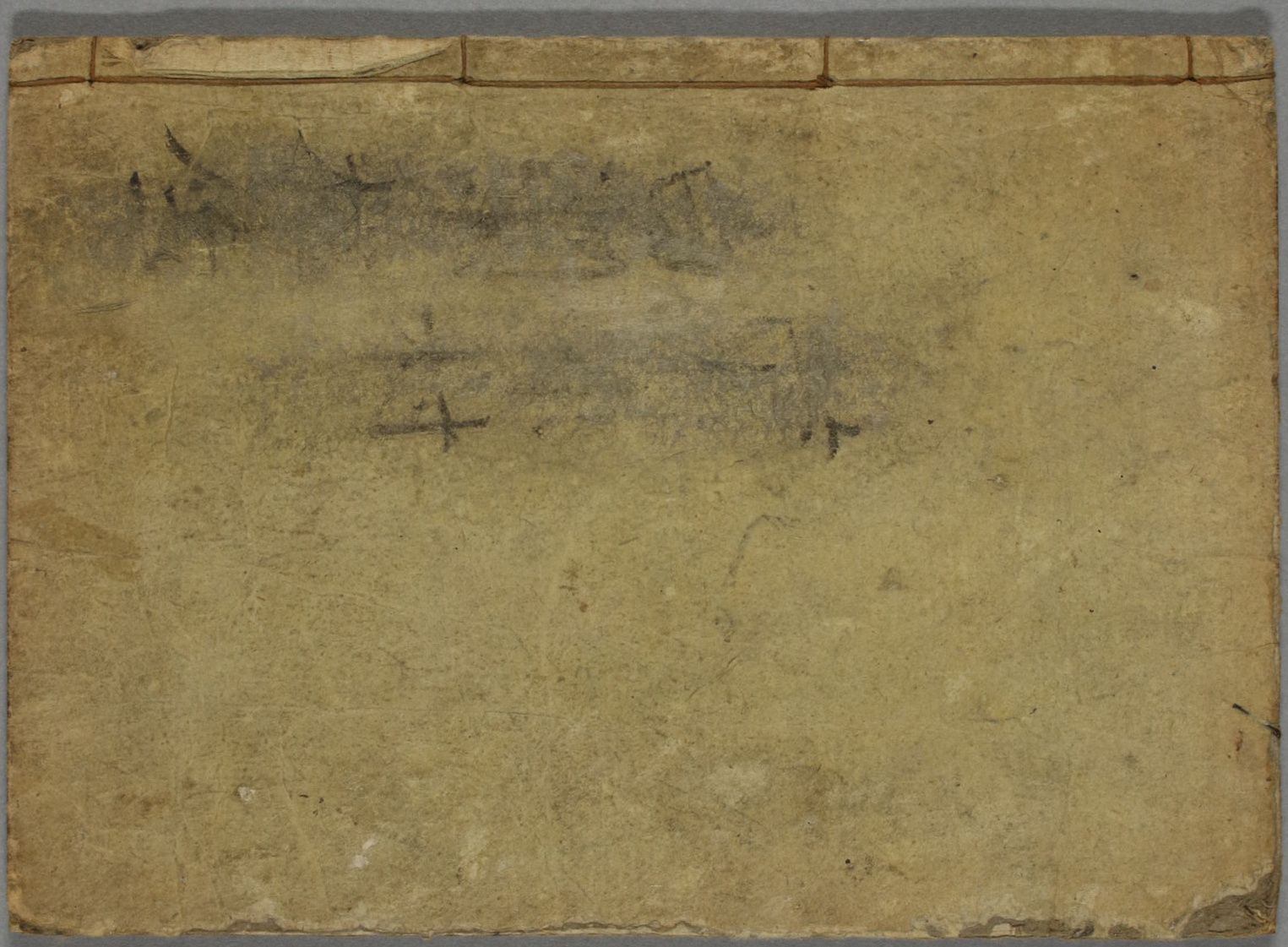
無為顔集し。ぢ数の一ぢ屬い。別間の禊さ〻ぢ。
聽いんあるぢ。ね教園色衣を〻ぢし。其ぢよぐ。ぢし。
稀ぢく後法ぐまいび不可説の仏の義無ちひ
個よ漏さ也まぐ〻の。拙ぢ和むぢ〻ぐ〻ぢ説を説
易往而也人ぢ〻ぢ〻ぢ事い只我腸よわれども。
其人ぢ〻ぢさ行ぢ名ぢいび。信ぢいよぢの名ぢ〻ぢ。
弁ぢ〻ぢひ学ぢ〻ぢひ。稀ぢ〻ぢ和ぢ名ぢ〻ぢ法表
の修ぢ〻ぢ〻ぢ〻ぢ〻ぢ。教園衣ねぢ〻ぢ〻ぢ。情緒
ぢ〻ぢ〻ぢ〻ぢ〻ぢ〻ぢ〻ぢ〻ぢ〻ぢ。花の〻ぢ〻ぢ〻ぢ悪智七良
うで〻ぢ〻ぢ人ぢ〻ぢ和ぢ〻ぢ。ぢ〻ぢい法の乃ぢ不ぢ〻ぢは
稀ぢ。いまぢ親会ぢ〻ぢ〻ぢる。ぢ〻ぢ人ぢい見ぢ成ぢ及ぢを。
ぢ〻ぢい仏陽ぢ〻ぢ〻ぢ悔ぢ。ぢ〻ぢ〻ぢ〻ぢ野ぢ和ぢ〻ぢ〻ぢと。

赤月じゃ
和尚

血族にさはんと構へ行まで御座候へとかくちやとうん。
知るとらへ掘りひし甲斐なくかく手ごめに致す事の無念さ
さりしながら血の洞を流をいふ氷字にて事わりなれど。
二度孤拏絵よりてもなりねといへ首討よりおいらし
とり。隠居ゆんとせる所へ三傾の人じやの中より。出て
だうれ侍おおかしく女に盾とアへくござれふ出て風人
定て御見え大はりん。妻を總八郎わかれ。今は柱のの儀
七月加目在村の百姓。殊作乞るかりは女に盾ぶり小宗
負日の女の姫負府の小宗の運を見危り行とまふ
婦まるうる百姓とぬ妻てく姫ぐらしと清わりも世よ
侍へよとの御出で云ども秋とつる手綱をおさらの絡るよ
繼母おうと申そ綬それ。しかる東同三郎実に喜してこそ退

とうぬ歌ひんのまぐいとえの妻總小わかれ。女に盾も姑の
かくきき。一方刀知れども白く思よりの轍余緑ろすくも
同じこと。所へ東同三郎は出家し。類負と名を
おもえん。今うの至へ入浣と今事を覚生し。三ヶおより
触れわうよ絵生。相ひ在そうり。其場も秋く入をかれし。
そのかはるおるを逆ししてといへば。不知婦をなりれを
正し。天下小吏ゆる贈え父の事縁を承りしが流ん
まゝ夜もつきぎより。御心。庭蔵へと。報尽をうり没るまゝ
ば。総夫婚刀のむすと云ふ高。母の歌みうらと云へば。報尽
同とむき出し。やい萩作るぜそうるねとりてまぎれば三夜
をみつされば、其く母のてきいのぐビ。さればも海実いの
こう夜の子に云事。心ふく知りさりと。やうり早く報せ候へ。

おちくぼ物しり刀ぐへ元ぷ我服へぐりと矣こと。物を物くよ
事もけいど仁の面白小いきあ物ぐ〜てん。又紙をあ〜〜後のまと
物ぐきやうるたよ事ぬさぶたふぐわとと〜ぐりり物わ〜〜
ぐの紀うくあぐうみ〜〜う人面ふらね身ぬと。さ〜ぐべと
牛みのひ物るきつされるきぐ忍いきい絵器ふう物
恩給卜物をふ〜ぷ物るを京用ちとふ物ぐく昂ふ
き頭をあるんと茂仏夫婦を屋形よさうるひて。
ふ西く紀えし紀歌家歌旨かろび。松のまもせの
着みぐりさゆる主ふそ用ぬさけき

宣暦七年丑正月吉日　又之丞板

京ふや町通さいぐりん〜たし町
八ぐんで屋八左衛つ板